



AOpen

AW744 Pro

価格：オープンブライズ (実売価格 5300円)



低価格で3Dオーディオを 楽しめるお手軽サウンドカード

YMF744内蔵のMIDI音源はウェーブテーブルの音色データをシステムメモリにロードするタイプで、XG対応の676音色+21ドラムセットを使用可能だ。同時発音数は64ボイス。1000以上もの同時発音数を実現する音源も今では珍しくないが、64ボイスなら通常は十分なスペックといえる。音のほもささがXG音源といえる高品位なもの。MIDI再生に不満を感じることはまずないだろう。

ゲームの3Dサウンドに関しては、英国Central Research LaboratoriesのSensauraをサポートする。これはYMF724と同様だが、YMF744搭載のAW744 Proでは4スピーカーモードもサポートされている。4スピーカーを使ったほうが、よりリアルな3Dサウンドを体感できるのはいうまでもない。実際にいくつかのゲームで試してみたところ、音が後ろ側に回り込む様子もかなりはっきりと分かった。ただしEAXやA3Dのハードウェアアクセラレーションはサポートせず、これらに対応したゲームでは残響の効果は感じられなかった。この点は残念だが、ある程度本格的な3Dサウンドの環境を低価格で実現できるという意味では、ゲームにとっても魅力的な製品といえる。

低価格で3Dオーディオを

「AW744 Pro」は、マザーボードメーカーとして有名なAOpenから発売されたサウンドカードだ。同社はこれまでもサウンドカードをいくつかリリースしているが、いずれもずば抜けた機能や特徴はないものの、基本機能を一通り網羅し、かつ低価格という、コストパフォーマンスに優れた製品を得意としてきた。このAW744 Proも、4スピーカーでの3Dサウンドをサポート、ウェーブテーブル音源内蔵、S/PDIF出力装備と、低価格ながら多彩な機能を持つ製品だ。

AW744 Proの搭載チップはヤマハ製YMF744。メーカーを問わず、非常に多くのサウンドカードに搭載されてきた人気チップYMF724の後継モデルだ。YMF724のXG対応ウェーブテーブル音源、S/PDIF出力などの機能を継承し、さらに3Dサウンドの4スピーカーモードに対応するなどの機能アップが実現されたものだ。



3DサウンドはSensauraをサポート。4スピーカーの迫力のサウンドでゲームを楽しめる

ができる。S/PDIF端子装備なのは、とくにMDユーザーにはありがたいところだ。出力できるサンプリングレートは48kHz固定だが、ほとんどのMDレコーダは48kHzに対応しているの、とくに問題はないだろう。

パッケージにはデジタル入力に関する記載はないが、基板にはS/PDIF入力用のコネクタも用意されている。これはCD-ROMドライブのS/PDIF出力と接続するためのもので、ケーブルを接続したところ、音楽CDを再生することができた。ただしS/PDIF入力機能は日本エイサーではサポートしておらず、このためのケーブルは付属していない。利用するには別途用意する必要がある。

付属ソフトとしては、CD、WAV、MIDIの再生およびオーディオの録音ができる「Music Center」、自動演奏に合わせて鍵盤をクリックしてMIDI演奏を楽しめる「MIDI Board」のほか、楽器を自由に入れ替えて、ビデオとともにMIDIデータを鑑賞できる「XGStudio」、ソフトカラオケなどが付属しており、AW744 Proの大きな魅力であるMIDI再生を楽しめるパッケージとなっている。

(田澤仁/アクロバイト)

POINT

低価格ながらS/PDIFの光デジタル出力を装備した、ヤマハYMF744チップを搭載したサウンドカード。3DサウンドはSensauraをサポート。

価格
オープンブライズ

問い合わせ先
日本エイサー AOpen 事業部
☎048-290-1819

サウンドチップ
YMF744

ボイス数
64ボイス

対応バス
PCI (2.1)

インタフェース
ブラケット：ライン入力×1、マイク入力×1、S/PDIF出力×1、MIDI/ジョイスティックポート
オンボードコネクタ：S/PDIF入力×1

対応OS
Windows 95/98, DOS

コストパフォーマンス



機能性/操作感



総合評価



XGStudioでは、MIDI再生時にビデオなどの画像を表示できる。パートごとの楽器の入れ替えによるアレンジも可能

MIDI Boardでは、ロック、ワルツ、マーチ、ルンバなどのリズムに合わせ、鍵盤をクリックしてMIDI演奏を楽しめる

